

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	利光 奈穂美
学科	子ども学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
幼児理解と援助	子ども	1
幼児と人間関係	子ども	2
保育内容（健康）	子ども	2
保育内容（人間関係）	子ども	2
基礎力プログラムⅡ	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	

研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	○建学の精神に基づき、子どもを知り、子どもの内面を理解し、温かいまなざしで愛情をもち関わることのできる使命感や責任感にあふれた心豊かな保育者を育成する。 ○理論的な学修と共に、専門的な知識や技能を身につけ、実践的な能力が習得できるような指導を行う。保育者としての資質と専門性を高めるため、実践事例や保育映像を活用し、保育カンファレンスやアセスメントなどのグループワーク・ディスカッションを行う。自分の気づきや考えを言葉で表現すると共に、他者の様々な考えや見方を知り傾聴することを繰り返し、コミュニケーション能力を高め、体験的な学びを深める授業を行う。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・文部科学省の実践動画や保育現場の実践映像、事例などを活用し、学生が考察やディスカッションを行った後、子どもの姿や保育者の援助や環境の構成について、具体的に解説を行い、学びを深められるように務めた。また実際に保育者として体験できるように実技を取り入れ、解説を行うようにしている。 ・実際の保育を想定し「チーム保育」を意識し授業を行った。グループワークで保育計画・準備・教材研究などを繰り返し、指導案を作成し、模擬保育へと展開した。 ・模擬保育授業においてはルーブリック評価を取り入れ、自己評価と相互評価を行い、主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理し、実習に反映させるようにした。 ・授業の振り返りや授業の理解度などについてリアクションペーパーを取り、次の授業に反映させ、学びが積み重ねられるようにした。提出物に関しては、評価しフィードバックを行い、学びの意欲向上につなげた。
授業以外（学生支援等）	・スチューデントアワーでは、様々な行事に参加し学生と交流したり、学園祭で模擬店の手伝いをしたりした。またC I 講習の実技研修（合宿）の引率を行った。 ・高大連携、高校ガイダンス等で、出前授業や大学紹介などを行った。 ・彦根市、多賀町などの幼稚園・保育所・認定こども園等の園内研究会や保育研修会などで研修講師を務めた。学生に幼児教育や現場の状況についての情報提供を行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・基礎力プログラムⅡの授業では、幼小の円滑な接続に向けての学習課題を設定し、長浜南小学校との交流授業を実現した。また学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を図った。学生の学びは、長浜市内私立園の先生方に公開し評価を得て学生の自信につながった。 ・グループでの模擬保育は、他者とのコミュニケーションを取り、意見を交わし、計画を基に保育を実践する力が身に付けられるよう工夫した。計画の段階から活発な意見交換ができ、準備から実践まで主体的で体験的な学びにつながった。 ・保育者としての幼児を見る目や保育者の心構え、姿勢など愛情をもったかわりができるように、繰り返し保育の基本を伝えることが大切だと感じている。
授業以外（学生支援等）	・学生同士の人間関係や実習に向けての不安、就職相談など、担任の学生以外にも多くの学生から相談を受けた。個々にアドバイスや助言を行い励ました。 ・面談や相談において、個々の学生の思いや悩みを丁寧に聞き、学生の心の拠り所となるようあたたかいかわりに努めている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・ 学生が保育現場を想像しながら学べるよう、実際に働く自分をイメージできるようなわかりやすい授業を心がけたい。また、学生が主体的に、意欲的に学びたくなるような授業の工夫を重ねたい。
授業以外 （学生支援等）	・ 委員会等に積極的に参加し学内活動に寄与する。 ・ 自分に与えられた仕事に、真摯に前向きに責任をもって取り組みたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	・ ぶんぶんひろば開催に向けて、学生の貴重な実践での学びとなるように、計画や学生指導などを行った。また地域子育て支援として、参加してくださった親子の憩いの時間となるように、安心安全な開催に努めた。
広報	・ 学生募集や学生生活の紹介など、SNS やブログでの広報活動に努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上